

# 次期可燃ごみ施設整備室だより

第2号  
平成29年7月

発行／出雲市経済環境部 環境施設課 次期可燃ごみ施設整備室

〒693-8530 出雲市今市町70

☎0853-21-6886 FAX 0853-21-6597

今号では、次期可燃ごみ処理施設のごみ処理方式などの基本的な考え方や、施設に最も適した整備・運営方式の調査・検討結果をまとめた『施設基本計画書』等を策定しましたので、この内容について皆様にお知らせいたします。

施設基本計画書等の詳しい内容は、市ホームページに掲載しますのでご覧ください。

## 施設の処理能力は？

1日あたり200トン（100トン×2炉）が処理できる能力に設定しました。

※出雲エネルギーセンターは、1日あたり218トン（109トン×2炉）です。

- ・人口の推移などから、平成27年度のごみ排出量を計画処理量に設定しました。
- ・大規模な災害のときに発生する可燃ごみの処理も考慮して能力を設定しています。

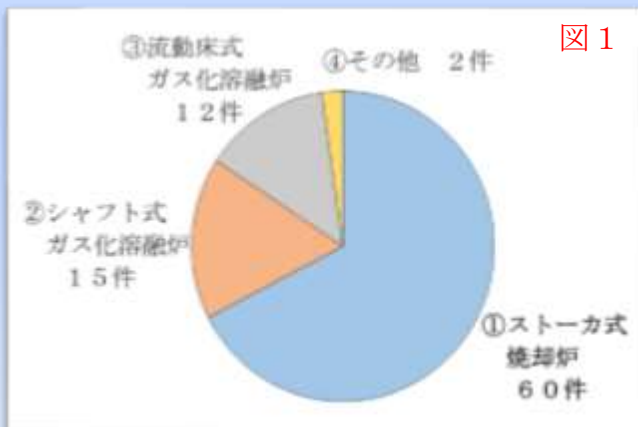
## ごみの処理方式は『ストーカ式焼却炉』に決定しました。

複数の処理方式を比較・検討して決定しました。

（なお、出雲エネルギーセンターはキルン式ガス化溶融炉を採用しています。）

### 【ストーカ式焼却炉に決定した理由】

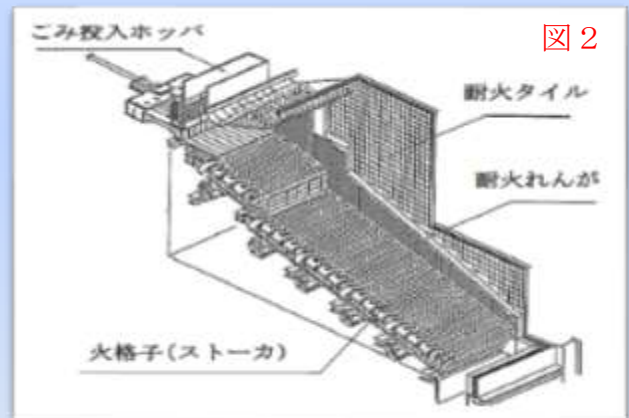
- ✓ ① 他自治体での採用実績が多い（図1）
- ✓ ② 二酸化炭素の排出量が少なく地球環境の保全に寄与できる。
- ✓ ③ 助燃材が不要なため、他の方式よりも運転経費が安くなり、また売電単価が高く売電収入が多く見込まれるため、総事業費を低減することができる。



過去10年の処理方式別の採用実績

### 【ストーカ式焼却炉の仕組み】

火格子(ストーカ)上でごみを移動させながら、空気を送入し、約900℃で完全燃焼させます。近年では同方式による低空気比燃焼による省エネ化、高温燃焼による排ガスのクリーン化、熱回収の効率化等の技術が進んでいます。（図2）



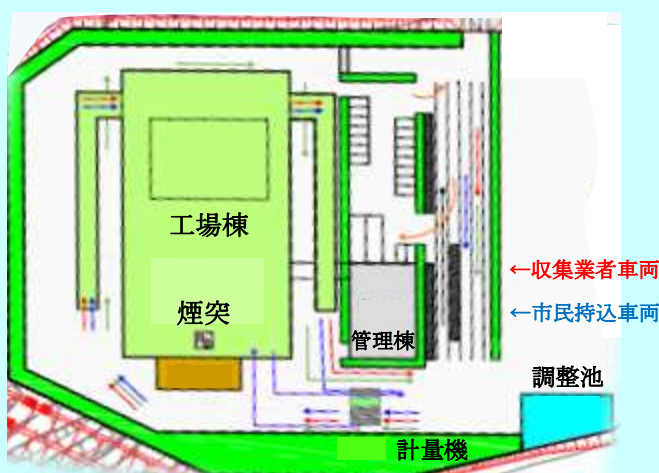
構造図（ブランドメーカーで異なります）

## 施設の整備・運営方式は『公設民営方式（DBO方式）』を選定しました。

市の資金調達によって、施設の設計(Design)、建設(Build)、運営・維持管理(Operate)を民間事業者に包括的に委託する公設民営方式（DBO方式）を選定しました。主な選定理由は、次のとおりです。

- ✔ 市が整備・運営する公設公営方式に比べて、市の負担額が安く経済性に優れている。
- ✔ 市と民間事業者によるリスク分担が明確になる。
- ✔ 近年ではこの方式を採用する自治体が多い。

### 建設地の配置・動線計画図



この図は、計画段階として想定したものです。今後、事業提案者からの提案を受けて詳細を決定します。

### そのほか次の項目について策定しました。

#### 環境保全目標

##### ①排ガス

出雲エネルギーセンターの自主基準値と同じか、さらに厳しい値を設定します。また、新たに規制の対象となる水銀の発生の防止・排出の抑制に努めます。

##### ②騒音・振動・悪臭

建設地は規制指定地域外ですが、法規制値を自主基準値として設定し、環境保全に努めます。

#### 焼却残渣の処分

原則、既設の最終処分場（神西一般廃棄物埋立処分場）に埋立処分するとともに、将来の資源化への変更も計画します。

#### 余熱利用計画

焼却処理で発生した余熱で発電を行い、施設内で利用するほか、余った電力は売電します。

### 専門委員の皆様を紹介します。

この計画は、廃棄物処理・環境・地方財政の専門の皆様からそれぞれの立場で意見を聞きながら検討し策定しました。

#### ◆学識経験者

岡山大学大学院教授	川本克也	氏
島根大学准教授	関 耕平	氏
出雲市環境審議会会長	森本直知	氏

#### ◆実務経験者

(公社)全国都市清掃会議技術部長	濱田雅巳	氏
------------------	------	---

#### ◆自治体代表

出雲市副市長	伊藤 功	
--------	------	--

#### 編集後記

先日、ゲンジ・ヘイケ・ヒメの三種類のほたる鑑賞に、古志町で開催された「古志ほたるまつり」に出かけてきました。多くのほたるが乱舞するのを見て、この豊かな自然と人が共存できる環境が保っていけるような事業を進めていきたいと改めて感じました...

